

【2020年3月期 第3四半期決算説明会】 質疑応答概要

※説明会における主な質疑応答をご紹介します。

<日 時>	2020年2月6日(木) 15:00 ~ 16:00
<出席者>	明治ホールディングス(株) 取締役常務執行役員 古田 純

**Q1：2019年度第3四半期までの進捗を踏まえ、通期営業利益計画1,080億円の達成のためには第4四半期で前年比90億円の増益が必要となりますが、どの様に達成させる計画ですか。**

A1：第4四半期における90億円の増益については低いハードルとは思っていませんが、計画達成を目指して努力していきます。食品セグメントにおいては、「明治プロビオヨーグルトR-1」の売上回復がキーになると考えています。12月は前年実績をクリアしましたので、第4四半期も積極的な拡売に取り組んでいきます。医薬品セグメントにおいては、第4四半期で薬価改定によるマイナス影響18億円を見込んでいますが、「シクレスト」、「ビラノア」、ヒト用ワクチンなどの伸長に加えて、原価低減や経費削減に努めることで、計画達成は可能と考えています。

**Q2：菓子事業は第3四半期において減収に加えて物流費や販売促進費が増加したことで減益となりましたが、この状況は第4四半期や来期にかけても続くのでしょうか。売り上げの伸びが弱くてもコストコントロールにより増益を確保するこれまでの方法は通用しなくなってきているのですか。**

A2：菓子事業においては、主力の「チョコレート効果」は上期までの進捗と比べて伸び率が鈍化しましたが、前年を十分に超えている状況にあり、好調に推移しています。菓子事業全体が第3四半期で減収となった要因は、グミ、ガム、ビスケットなどのカテゴリーの減収によるものです。また、第3四半期は物流費や宣伝費が増えたこともあり減益となりましたが、第4四半期については、コストコントロールも進めていきますので、計画通り増益を達成したいと考えています。

**Q3：「ザバスミルクプロテイン」の売上高は第3四半期累計で対前期増減率が+139%と伸び率が鈍化しているように見えますがどのように評価していますか。**

A3：「ザバスミルクプロテイン」は止渴飲料としても購入されています。そのため夏場の方が比較的良く売れ、第2四半期の売り上げが年間で最も高くなる傾向にあります。また前期の第3四半期から大きく伸び始めているため、今期の第3四半期の伸び率が鈍化したように見えますが、引き続き好調に推移していると評価しています。

**Q4：脱脂粉乳やカカオ豆の価格が最近上がってきていますが、今期と比べて来期の原材料コストの利益インパクトはどの程度あると見込んでいますか。**

A4：国内乳価については、来期は価格据え置きとなる見込みのため、コストアップの影響はありません。なお、カカオ豆や海外乳原料の価格変動インパクトを予想することは難しい作業です。従って、来期の予算が決まった際に改めてご説明させていただきますが、来期の原材料コストのインパクトは現時点では今期よりも小さいものと考えています。

**Q5：食品セグメントの海外事業は第3四半期累計で1.1%の増収となりましたが、上期までと比べて伸び率が鈍化したのはどのような要因でしょうか。一方で、営業利益は既にほぼ年間計画値に届いてしまっている状況ですが、このギャップをどのように分析されていますか。**

A5：海外事業の売上高については上期と比べると弱含んでいるように見えますが、中国や東南アジア、米国などの海外子会社は順調に伸びています。一方で、輸出事業において菓子や粉ミルクの売り上げが一部の国で減少していることが要因です。なお、利益については海外子会社の売り上げが順調なことから、通期では計画を上回ると見込んでいます。

以上